

区分・種別	県指定史跡		
名称	おおずじょうあと 大洲城跡		
所在地	大洲市大洲		
所有者	大洲市	管理団体	
指定年月日	昭和28年2月13日		
解説	<p>大洲城は、東に肱川、西に久米川が流れる標高約40mの小丘に築造された平山城で、地蔵ヶ岳城、亀ヶ岡城、大津城などと呼ばれた。</p> <p>元弘年間（1331～1334）以来、宇都宮、戸田、藤堂、脇坂、加藤の諸氏が城主となった。</p> <p>元和3（1617）年、加藤貞泰が大津（大洲）6万石の領主として入府し、以後、廃藩まで加藤家13代の居城となった。城は丘陵頂部を本丸、その下段を二の丸とし、西と南には内堀を設ける。その外側が三の丸で周囲には外堀があった。城郭の規模は東西約300m、南北約430mあり、天守のほかに20棟近い櫓があった。現在、城跡には本丸を中心とする石垣と櫓4棟（いずれも重要文化財）、内堀の一部が遺構として残り、このうち本丸と二の丸の一部を史跡に指定している。</p> <p>平成16（2004）年、本丸に4層4階の天守を、発掘結果や古写真、江戸期の模型を参考にしながら忠実に復元した。</p>		

